歴史的ツーバイフォー建築物を訪ねて―明治～昭和初期―
第二回

アメリカ帰りの建築家が手掛けた旧木下建平邸

内田 青蔵（神奈川大学建築学部教授）

①～④現存する日本最古のツーバイフォー工法による住宅「旧木下建平邸」。国登録有形文化財に指定されている。正面の外観（②）は、切妻屋根とベイウインドウ（④）による左右対称のデザインで、中央の玄関ポーチ（①）の上には2階バルコニーがある。庭側外観（③）は大きな屋根窓により異なる趣をもつ。

アメリカで鉱山学を学び、新構法を日本に導入した建築家・小笹三郎

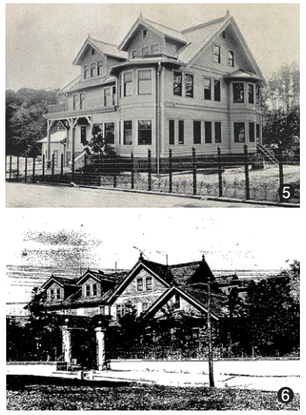
1873（明治6）年、わが国に初めて工学を学ぶ高等教育機関が開校された。1877（明治10）年に工部大学校と改称され、1886（明治19）年には東京大学と合併して帝国大学工科大学（現在の東京大学工学部）となった。当時、造家学科と称されていた建築学科は、ようやくイギリス人建築家のJ・コンドルを教授として迎え、辰野金吾などの日本人建築家が誕生した。工部大学校の教育環境は、世界的にも極めて質が高いものだったといわれているが、なかには海外に教育の場を求め、高校・大学と海外で学んだものもいた。

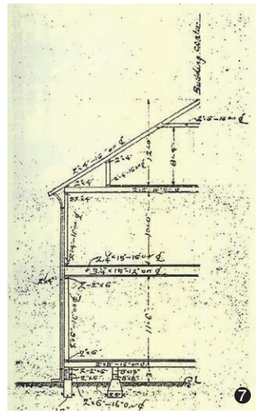
そのひとりがアメリカで教育を受けた小笹三郎だ。1876（明治9）年、長崎に生まれ、1893（明治26）年に北米に渡り、アメリカのワシントン州の東部にあるスポーケン市の高校を経て、オレゴン州立大学で鉱山学を学んだ。当時、アメリカでは鉱山学を経て建築家となる人が多かったようで、1907（明治40）年に卒業した小笹はユニオンパシフィック鉄道会社の子会社を経て、独立して1909（明治42）年にはシアトル市で土木建築事務所を開いた（『現代人名辞典』中央通信社　1912年）。ちなみに、『SHAPING SEATTLE ARCHITECTURE-A Historical Guide to the Architects』（University of Washington Press, 1994）には小笹の作品として住宅や銀行とともに1910（明治43）年に竣工して現存するパナマホテルが紹介されている。留学後に海外の地に自らの作品を残した日本人建築家はほとんどおらず、貴重な存在のひとりといえる。そのアメリカで独立して成功していた小笹は、2年後の1911（明治44）年に帰国し、11月には東京で小笹工務所を開設している。

帰国後、小笹は1912（明治45）年に東京・高輪に三井銀行監査役の小野友次郎邸、1912（大正元）年には神奈川県大磯駅前に木下建平邸、1913（大正2）年には、福岡県に三井三池炭鉱倶楽部を手掛けた。そして、現存する旧木下邸とともに三井三池炭鉱倶楽部の図面から、どちらも小笹がアメリカで学んできたアメリカ独自のツーバイフォー構法を用いた建築であったのである。

帰国した小笹は、アメリカで学んだ新式構法の特徴として、①足場を使わない、②部材に継ぎ手・仕口を使わない、という2点を挙げ、日本の構法と比べ、極めて経済的で無駄な時間を省いた合理的構法であると紹介し、積極的に採用していたのである（「米国式の建築法」『建築画報』1911年12月号）。

さて、『建築画報』1912年5月号では竣工した小野邸について、建築様式は「亜米利加式カンツリーハウス」で、基礎は煉瓦造、外壁は下見板張り仕上げで、「僅々三箇月にして工を終わる」と小笹は紹介している。その姿は、ベランダや出窓、急勾配屋根に屋根窓を配した極めて変化に富んだもので、無駄な装飾のないシンプルで魅力的なデザインの住宅だった。





小笹が同時期に建てた小野友次郎邸の外観（⑤）と、三井三池炭鉱倶楽部の外観（⑥）・矩計図（⑦）。

旧木下邸の小屋の垂木（⑧）と外壁内部の様子（⑨）。2階床部分を復元した下図から1階・2階の柱材が独立し、1階部分を建てた上に2階を重ねるプラット・フォーム構法であることがわかる。

プラット・フォーム構法が採用された現存建築・旧木下建平邸

現存する旧木下建平邸は、貿易商を営んでいた資産家の別邸で、外壁が下見板張り、開口部の窓の桟割など全体的に小野邸と極めて類似したデザインの建築で、唯一異なるのは正面が左右対称の均整の取れた姿を見せている点である。詳細は不明だが、軸組には角材はなく板材だけで、小屋の垂木も50×100㎜の板材で、傷んだ外壁部分の復原図からバルーン・フレームを発展させたプラット・フォーム構法によるものと考えられる。

ただ、この新構法の導入を積極的に試みていた小笹は、1915（大正4）年、突然亡くなった。小笹の唯一の遺構となった旧木下邸は、垢抜けした本場の香りを今でも漂わせており、彼がもっと生きていればツーバイフォーの歴史も変わっていたのかもしれないと思うのは、私だけであろうか。

参考資料／山口廣先生を囲む会『山口廣退職記念講話集』1997年

DATA
旧木下建平邸
竣工年／1912（大正元）年
所在地／神奈川県中郡大磯町
設計者／小笹三郎